

平成27年12月1日発行

発行 安曇野市体育協会広報委員会 〒399-8211 安曇野市堀金烏川12662 堀金総合体育館内 TEL&FAX.0263-88-3516
E-mail azuminoshi.taikyou@ia8.itkeeper.ne.jp URL http://www.azuminoshi-taikyo.org

体協会長挨拶

会長 下里 安生

町村合併に伴い、安曇野市体育協会が発足、平成二十七年年度末で十年が経過します。平成十八年四月八日に開催された設立総会で会則を承認、新役員が選任されて形は出来上がったものの、事務局は合併前と同様に行政職員が担当する形でした。発足一年目は、十九年度以降の事業計画、財源確保、諸規定づくりを終始しました。そのうち事業については旧五町村体育協会、南安曇郡体育協会の事業を受け継ぐことにしました。また、主たる財源のうち市の補助金については、町村合併以前に旧五町村及び、南安曇郡町村会から受けていた補助金額をそのまま継続することで市の了解が得られましたが、補助金額は事業費の五十パーセント以内という条件付きでした。会費額については、現在行われている安曇野市体育協会独自の算定方法を取り入れました。

平成二十一年度からは、明科の教育委員会事務局内にあった体協事務局を豊科勤労者総合スポーツ施設体育館に移し、行政から独り立ちする第一歩を踏み出しました。翌二十二年度からは事務局を堀金総合体育館に移し、二十一年度まで行政職員が担当していたスポーツ少年団の事務局業務を新たに採用した体協職員が担当することとなり、体協事務局はようやく独り立ちする体制が整いました。この間、二十二年度に第一回市民スポーツ祭が開催され体協は種目別競技会を担当、今年で第六回になります。また、加入団体の協力を得て、二十四年度から本協会主催のスポー

ツ教室を開催し二十七年度は二十教室を開催する予定です。

一方で、平成二十三年九月より一層の組織の活性化、運営の厳正化を図り、外部からも存在を認めてもらえるような体協になる事を目指し法人格取得の方向を打ち出しました。以来、約四年間にわたり総務委員会での検討、各地域体協や競技団体の意見聴取、説明会等を重ね、今年一月に体育協会加入団体の代表からなる特定非営利活動法人安曇野市体育協会設立準備委員会を結成、十月二十四日には設立総会を開催するに至りました。予定通り順調に事が運べば、本会結成十一年目にあたる二十八年四月から特定非営利活動法人安曇野市体育協会として再出発することになります。

この大きな節目にあたり、体育協会本来の目的「スポーツを通して健全な精神の高揚を図り、健康的で明るい社会づくりに寄与する」という基本的な考え方をもう一度思い返したい。また、体育協会に加入し活動が続ける中で、自らの願いを实らせていくことは勿論大事な事ですが、それだけでなく、「健康で明るい社会づくりの為に少しでも役に立ちたい」という奉仕の精神を忘れないでいきたいと思うのです。体育協会に加入し、活動することを、損得を超越して「誇り」に思える体育協会であり会員でありたいと願っています。

安曇野市スポーツ少年団

本部長退任のご挨拶

初代本部長 西村 義夫

今年の三月をもって本部長を退任させてい



ただきました。在任した四期八年の間、関係した皆様には本当にお世話になりました。心より御礼と感謝を申し上げます。

想えば安曇野市誕生の翌年から発足した市体育協会「スポーツ少年団設立準備委員会」の委員の皆様には、設立への条件整備及び規定案作り等検討を重ねていただくなか平成十九年一月には「設立総会」、四月には「結団式」を挙行するに至りました。また、発足当初も含めスポ少事務局としてご尽力いただいた教育委員会スポーツ振興係の山下泰永様、中島俊一郎様には大変お世話になりました。私自身、思いもしなかつた初代本部長をお引き受けしたのは、合併前の豊科スポーツ少年団の組織と運営の確かさを実際に肌で感じていたからだと思います。

平成二十二年度からは市の行政改革に伴い、スポ少の事務処理を体育協会事務局が担当することとなりました。県下最大を誇る六十四単位団をとりまとめいくことは難しい事だと思っています。

私もスポ少指導歴は三十年を過ぎました。本部長としては何も出来ませんでした。このところの急激な社会環境の変化は、益々「スポーツ少年団の活動・将来像」を難しいものにしていきます。しかし、私たちは如何なる時も「スポーツを通じた青少年の教育の場」とする認識を大切に「スポーツをする楽しさ・よく学べる場」の提供者でありたいと常に願っています。

結びに、安曇野市スポーツ少年団のますま

すの発展をご祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。

安曇野市スポーツ少年団
本部長就任のご挨拶
 二代目本部長 加々美 浩一

この度、前任の西村本部長の後任として安曇野市スポーツ少年団本部長を務めます加々美浩一です。所属は明科サッカースポーツ少年団コーチです。各単位団の指導者、母集団の皆様と共に、スポーツ少年団活動に取り組みたいと思っていますのでよろしくお願います。

今年安曇野市となってから十年の節目を迎えることができました。これも創設以来、少年団活動を支えてくださった多くの皆様のご熱心と努力により、育成、継承されてきたおかげと感謝しています。さて、現在めまぐるしく変化する社会環境の中で、少子化や運動嫌いの子どもの増加など、多くの問題が生じています。さらに、暴力や差別、スポーツ障害など、人権にも関わる重大な問題も生じているのが現実です。その中で、子ども達が夢や希望を抱き、身体を育み、強い意志を持って未来に進むため、地域に密着したスポーツ少年団の果たす役割はますます重要となっています。その為に、様々な問題に向き合い、課題解決に一步一步取り組んでいくことが重要であると思います。「この地域の全ての子ども達が楽しくスポーツにかかわり、人々をつなぎ、地域に貢献する」という理念に基づき、先輩諸氏の思いを継承し、スポーツ活動を通して青少年の健全育成という未来への架け橋をつくっていききたいと思っています。

特定非営利活動法人
安曇野市体育協会
設立総会開催

《設立総会までの経緯》

- 平成二十三年九月二日
 ・安曇野市体育協会設立五周年、法人格取得の方
 向で検討を開始
- 平成二十三年十二月十七日
 ・理事会総務委員会において、法人化研究委員会
 を設置し、五年後を目途に準備を進めることを承認
- 平成二十七年一月三十日
 ・第一回設立準備委員会開催
- 平成二十七年八月二十五日
 ・代議員会において平成二十八年度より特定非営
 利活動法人安曇野市体育協会への移行を承認
- 平成二十七年十月二十四日
 ・設立総会開催、八回の準備委員会開催を経て特
 定非営利活動法人安曇野市体育協会設立に関す
 る議案が全て承認された。

《設立当初役員》

順不同敬称略

● 理 事

- | | |
|------------|------------|
| 藤森 康友 (豊科) | 柿本 豊 (穂高) |
| 古川 節雄 (豊科) | 鈴木 尚登 (穂高) |
| 内川慶一郎 (豊科) | 鶴見 弘 (堀金) |
| 三澤 賢二 (三郷) | 赤羽 利夫 (明科) |
| 加々美浩一 (明科) | 赤羽 高明 (豊科) |
| 白井 良臣 (堀金) | 務台 正直 (三郷) |

● 監 事

- | | |
|------------|------------|
| 伊藤 勝 (堀金) | 大谷 洋子 (豊科) |
| 宮島 義征 (豊科) | |
| 伊藤 重徳 (明科) | 宮島 哲雄 (堀金) |

※設立準備委員会三部会

- ・正会員団体より一名、全二十四名

《総務部会》

- ・定款(案)の作成と定款に伴う諸規定の作成、
 設立当初の役員の選任

《事業部会》

- ・平成二十八年度、二十九年度の事業計画案の
 作成

《財務部会》

- ・平成二十八年度、二十九年度予算(案)の作成
 ・定款、諸規定との整合性の確認



受賞者の紹介

功労賞

◆上條 誠
(市体協弓道部)

栄光賞

◆武藤美羽(市
空手道連盟 第
十二回長野県小
学生空手道選手
権大会優勝)

◆チロリンズ(市体協軟式野球部 第五十八
回高松宮賜杯全日本軟式野球大会 第二部
準優勝)



奨励賞

- ◆吉森大和(南安曇農業高 全国高校総体ス
ピードスケート)
- ◆恩田佑哉(松商学園高等学校 第八十七回
選抜高校野球大会硬式野球)
- ◆曾根原和音(松本県ヶ丘高等学校 全国高
校総体バドミントン)
- ◆遠藤美芙由◆丸山優衣◆岩月聖奈◆岩岡咲
乃(共に豊科南中学校 全国中学校総体卓
球)
- ◆佐々木笙(豊科北中学校 全国中学校総体
柔道)
- ◆小林叶音(豊科北中学校 全国中学総体陸
上四百mリレー)

以上敬称略順不同



宮沢市長あいさつ



反復横跳び 親子で競争

安曇野市制10周年記念 安曇野市スポーツ祭総合開会式



グラウンドゴルフ 親子とその友達



ストラックアウト 全部当ててやる!!

日独スポーツ少年団 同時交流報告

日独スポーツ少年団同時交流は、日本体育協会日本スポーツ少年団とドイツユーゲットとの協定に基づき実施される青少年の国際交流事業。単位団で活動しながら、初級ジュニアリーダースクールをスタートに各種の交流大会や中央での研修会に参加、研鑽を積み日本体育協会の審査に合格した団員が日本団を組織し、本年度は七月三十一日から八月十七日までの十八日間のドイツ滞在となりました。

《二見和斗君報告》

楽動隊 大町高校二年

僕は今回、日独同時交流に派遣団員として参加して、沢山の事を感じ、学ぶ事ができました。その中から二つを紹介したいと思います。

まず一つは、コミュニケーションや言語についてです。僕はドイツに行く前はコミュニケーションや言語についての不安がありました。しかし、ドイツのお店に行った時などは少し困りましたが、ホームステイ等受け入れ先ではコミュニケーションや言語で困ることはありませんでした。それはやはりホームステイ先の人達が気を使ってくれたり、互いに理解しようとしていたからだと思います。このことは今後に生かしていかなければいけない事だと思っています。

二つ目は食べ物についてです。ドイツの食べ物はどれもとてもおいしく、量も多かったのでも満足することができました。また、今までに見たことがなかった果物なども知ることができたり、勉強にもなりました。沢山のものを見て、感じて、体験することができました。日独同時交流で僕は成長する事ができたという確信を持つことができています。とても充実した滞在でした。

《二見はるかさん報告》

楽動隊 信州大学三年

私は今回日独同時交流に参加させていただき、多くの事を学び、考え、感じて来ることができました。私は派遣団員として参加するのは二回目でしたが、私にとって一回目は違う意味を持った実りの多い交流になりました。私が一番心に残っているのは、ホストファミリーのレナとの出会いです。私は一回目のドイツに行った時あまり話しをすることができませんでした。今回は積極的に話をしてみようと決めていました。私が英語を話すことはそんなにできませんが、何とかして話していくうちにいろいろなことを知りました。レナは、私と同じ歳で同じ教育について大学で学んでいて教師を目指しています。他にも多くの共通点がありました。私とレナは毎日夜遅くまで、多くの事を語り合いました。その中で私は、ドイツと日本の価値観の違いを知り、新しい考えを持つたり、自分の考えについて深めたりすることができました。私はレナのことが大好きになりました。レ

ナはお別れの日に私に「あなたは私の大切な家族だ」と言ってくれました。私も同じ気持ちだったので、それがとてもうれしかったです。私は今回の交流で、人とのつながりの大切さを学びました。人と関わることは常に私に新しいことを教えてくれます。人と関わるのが最も真実で、異文化体験だと思います。そう考えると私は、今までもそういうチャンスが沢山あったのにそれを見逃していたのかも知れません。ドイツの方やつながりをこれからも大切に、ここでの経験を日常生活に生かしていきたいと思えます。私にとって今年の夏は忘れられない時間となりました。



二十七年 安曇野市スポーツ少年団 結団式



《賛助会員》ご協力いただいています

- ・長野銀行(株) 豊科支店
- ・八十二銀行(株) 豊科支店
- ・あづみ農業協同組合
- ・安曇観光タクシー(株)
- ・豊科総合開発(株) 豊科カントリー倶楽部
- ・穂高カントリー(株)
- ・あづみ野カントリー(株)
- ・あづみ野テレビ(株)

敬称略 順不同